



吉村春風子句集

午後の椅子

北河社

コスモスの花に憩ひて午後の椅子

未知の地に想ひ馳せをり初暦

人日に夢を織り込みおのがじし

ほろ苦きわが人生や露の臺

稿終へて虫の夜となり酒となり

いつしかに歩みも秋の水に沿ふ

さびしさと気まま半ばの案山子かな

雪溪のどこまで続くカナディアン

春の風受く駘蕩のマーライオン

夏蝶のホワイトハウスの庭にまで

春雷に応へて熱きフラメンコ

驟雨去りあと不夜城のラスベガス

野路を来て我も一幹竹の春

佇めば紅さし初むる糸櫻

自らの影も運びて蟻の列

黙しゐるわれ一本の夏木立

糸瓜忌やわれは情景句座にあり

マヌカンの笑みに誘はれ水着買ふ

S 駅に出逢ひのありて帰り花

新樹の香また逢ひたくて六本木

手相見によく逢ふ街やソーダ水

夏の句を紙ナプキンへ走り書く

坂道を広尾へ抜けて冬うらら

Eメール来てあかときの雪となる

ローマ風スープレの昼餉秋の雲

これからもまだ働けと男梅雨

除夜の鐘撞きても消えぬ子煩惱

こつそりと僧のうらなふ初みくじ

取り敢へず会釈返しておでん酒

頃合をはかりて帰る煤払

逢ひに行く今年も木曾へ夏帽子

暮れ残る花野や能登のゆきどまり

ひとすぢの風に嵯峨野の花芒

大和路を紅葉づたひに古墳かな

木曾谷の川の音色も晩夏なる

畳なはる恵那の山脈夏惜しむ

ふるさとの峡の一夜を秋扇

健やかな母と語るや盆の月

父のことぼつりと母の霊送り

山影をあつめし湖や座禅草

暮れゆくも吾飄々と烏瓜

宇宙より帰りてみれば雪女郎

新涼の確かさの木立にも

青き踏む虚空は常の静けさに

ゆつくりと遊んでゐたる春の蝶

夕花野風の化身となりてをり

絵手紙に通草の秘密封じけり

京しぐれカクテル「モネ」の淡き恋

風と日の寄り合ふところ冬木の芽

裸木となりて樹芯に炎立つ

句集 午後の椅子ごごいす 現代俳句10人集 第XII期①

発行日……………平成十四年六月二十一日

著 者……………吉村春風子

発行人……………小島 哲夫

発行所……………北 溟 社

東京都新宿区高田馬場四―一―六―四〇二

郵便番号 一六九―〇〇七五

電 話 〇三―五三八九―〇四三〇

F A X 〇三―五三八九―〇四四〇

印刷・製本…いわた技研印刷 株式会社

©2002 Yoshimura Shunpushi Printed in Japan

ISBN 4-89448-317-3

落丁・乱丁はお取り替えます